

会社の概況

(平成29年9月30日現在)

商号	株式会社朝日工業社 ASAHI KOGYOSHA CO.,LTD.
創業	大正14年4月3日
設立	昭和15年8月8日
資本金	3,857,100千円
代表者	代表取締役社長 高須康有
従業員数	938名(連結)、901名(単体)
事業内容	<div style="display: flex; gap: 5px;"> ■ 設備工事業 ■ 機器製造販売事業 </div>
事業所	本社および本店（東京都港区） 大阪支社（大阪市淀川区） 支店8ヶ所、営業所27ヶ所 機器事業部（千葉県船橋市） 技術研究所（千葉県習志野市）
建設業許可	国土交通大臣許可（特-26）第2822号 管工事業、電気工事業、 機械器具設置工事業、建築工事業 国土交通大臣許可（般-26）第2822号 消防施設工事業

連結子会社

(平成29年9月30日現在)

国内	北海道アサヒ冷熱工事株式会社 旭栄興産株式会社
海外	亞太朝日股份有限公司 ASAHI ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.

株式の状況

(平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数	27,200千株
発行済株式の総数	6,800千株
株主数	2,847名
大株主	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
朝日工業社共栄会	533	8.35
朝日工業社西日本共栄会	458	7.17
朝日工業社従業員持株会	323	5.06
株式会社みずほ銀行	317	4.96
農林中央金庫	288	4.50
日本生命保険相互会社	250	3.92
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	242	3.80
高須康有	203	3.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	121	1.90
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	105	1.65

株式の所有者別分布状況

所有者	株主数	保有株式数	保有比率
個人・その他	2,618名	4,023千株	59.16%
金融機関	29名	1,728千株	25.41%
その他法人	116名	719千株	10.57%
外国法人等	61名	254千株	3.74%
金融商品取引業者	23名	76千株	1.12%
計	2,847名	6,800千株	100.00%

株主メモ

■ 事業年度

4月1日～翌年3月31日

■ 定時株主総会

毎年6月

■ 基準日

定時株主総会 3月31日

期末配当 3月31日

中間配当 9月30日

その他必要がある場合は予め公告いたします。

■ 株主名簿管理人・特別口座管理機関

東京都中央区八重洲一丁目2番1号

みずほ信託銀行株式会社

■ 郵便物送付先

〒168-8507

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

■ 電話お問い合わせ先

0120-288-324（フリーダイヤル）

※土・日・祝日を除く9:00～17:00

■ 特別口座お取扱店

みずほ信託銀行株式会社

本店および全国各支店

みずほ証券株式会社

本店および全国各支店

■ 単元株式数

100株

■ 上場金融商品取引所

東京証券取引所（第一部）

証券コード1975

■ 公告方法

電子公告により行います。

ただし、やむを得ない事由によって

電子公告による公告をすることが

できない場合には、日本経済新聞に

掲載して行います。

※当社は平成28年10月1日をもって、当社普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、株式併合（5株を1株に併合）を実施いたしました。

※証券会社に口座をお持ちの場合、未払配当金の支払および支払明細発行以外のお手続は、お取引の証券会社にお申し出ください。

※特別口座では単元未満株式の買取および買増以外の株式売買はできません。



第89期 中間報告書

平成29年4月1日 ▶ 平成29年9月30日

株式会社朝日工業社



当第2四半期のポイント

受注高 **55,168**百万円 (前年比**7.7%**増)

売上高 **36,080**百万円 (前年比**1.4%**減)

営業利益 **1,520**百万円 (前年比**17.6%**減)

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **1,011**百万円 (前年比**23.5%**減)



Top Message

トップメッセージ

皆さまの期待を上回る価値と満足の提供に努めてまいります。

代表取締役社長 **高須 康有**

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第89期中間報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

期中の市場環境について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融当局の金融政策による雇用や所得環境の改善を受けて、個人消費も緩やかに回復し、企業収益も改善されたことを背景に、設備投資も持ち直しの動きが見られ、国内の景気は緩やかな回復基調が継続しました。海外経済は、米国の政策動向の不透明感や中国経済の先行き懸念はありますが、緩やかな回復が見られました。

当社グループの事業の環境は、設備工事事業につきましては、政府建設投資は底堅く推移しており、民間の受注環境につきましても生活・文化環境施設や生産環境施設など堅調に推移いたしました。しかしながら、受注価格競争の厳しさは続いており、施工面においても要員の不足や資機材の高騰などが懸念されております。精密環境制御機器の製造販売事業につきましては、FPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置向け製品は、中国・韓国を中心とする設備投資が続いており受注および生産は堅調に推移いたしました。また、半導体製造装置向け製品は、前年並みに推移いたしました。

通期の見通しについて

第3四半期以降の見通しは、日本経済は雇用や所得環境が堅調に推移する中で先行きは緩やかに回復していくことが期待されますが、一方、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動がわが国の景気回復に影響を与えることが考えられます。

こうした事業環境の中、設備工事事業は、厳しい価格競争は続くものの民間工事を中心に引き続き堅調に推移し、機器製造販売事業は、FPD製造装置ならびに半導体製造装置向け製品の生産および販売は上半期並みを維持すると思われま。

株主の皆さまへのメッセージ

このような中、設備工事事業は、採算性と施工体制を重視し、将来に向けた戦略的受注活動の展開を図るとともに、施工現場における業務の効率化、生産性の向上と負荷軽減に取り組めます。機器製造販売事業は、生産性をさらに向上させるとともに、FPD・半導体の周辺市場や応用分野での顧客の開拓を進めます。第16次中期経営計画の初年度に当たり、当社グループの持続的成長と、より一層の企業価値の向上を目指し、皆さまのご期待に応えるため、グループ一丸となって目標の達成に全力を挙げて取り組んでまいります。

株主の皆さまには今後とも特段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト

単位:百万円

▶ 受注高

55,168

百万円

▶ 売上高

36,080

百万円

▶ 営業利益

1,520

百万円

▶ 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

1,011

百万円

▶ 純資産

26,904

百万円

▶ 総資産

66,209

百万円

連結財務諸表(要約)

貸借対照表

単位:百万円

	当第2四半期末 平成29年9月30日現在	前期末 平成29年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	47,418	50,820
固定資産	18,790	17,322
有形固定資産	5,236	4,433
無形固定資産	797	489
投資その他の資産	12,756	12,400
資産合計	66,209	68,143
(負債の部)		
流動負債	35,022	38,674
固定負債	4,282	3,277
負債合計	39,304	41,951
(純資産の部)		
株主資本	23,044	22,623
資本金	3,857	3,857
資本剰余金	3,721	3,721
利益剰余金	16,207	15,786
自己株式	△ 742	△ 741
その他の包括利益累計額	3,860	3,567
その他有価証券評価差額金	4,264	4,014
為替換算調整勘定	124	109
退職給付に係る調整累計額	△ 527	△ 555
純資産合計	26,904	26,191
負債純資産合計	66,209	68,143

損益計算書

単位:百万円

	当第2四半期累計 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
売上高	36,080	36,576
売上原価	31,713	31,893
売上総利益	4,366	4,682
販売費及び一般管理費	2,846	2,838
営業利益	1,520	1,844
営業外収益	136	139
営業外費用	56	39
経常利益	1,600	1,944
特別利益	-	20
特別損失	32	2
税金等調整前四半期純利益	1,568	1,962
法人税、住民税及び事業税	162	387
法人税等調整額	394	251
四半期純利益	1,011	1,323
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,011	1,323

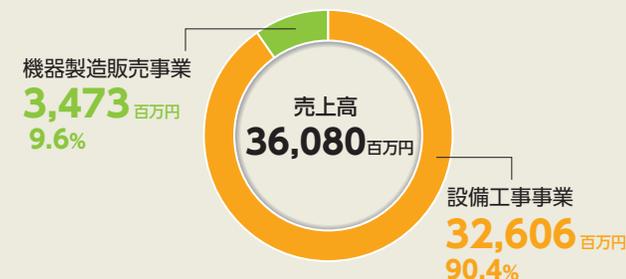
キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	当第2四半期累計 平成29年4月1日から 平成29年9月30日まで	前年同期 平成28年4月1日から 平成28年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	1,082	△ 5,776
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 389	△ 462
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 475	△ 1,188
現金及び現金同等物に係る 換算差額	15	△ 88
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	232	△ 7,515
現金及び現金同等物の 期首残高	7,584	10,873
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,816	3,358

■ セグメント情報

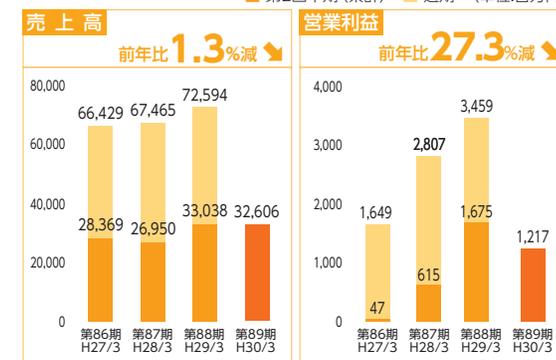
売上高構成比



■ 設備工事事業

事業内容：空気調和、給排水衛生、クリーンルーム等の環境整備に関する諸設備の設計、施工および監理

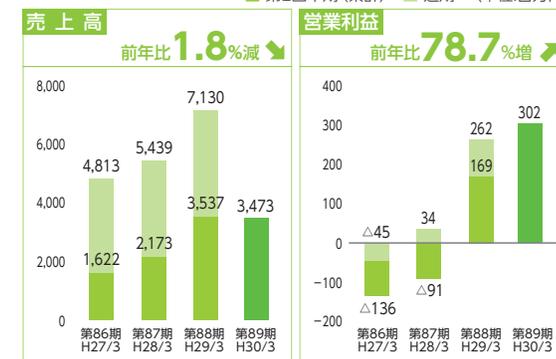
■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



■ 機器製造販売事業

事業内容：半導体および液晶製造装置向け精密環境制御機器の製造販売

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



財務の詳細内容は、当社ウェブサイトからご確認ください。

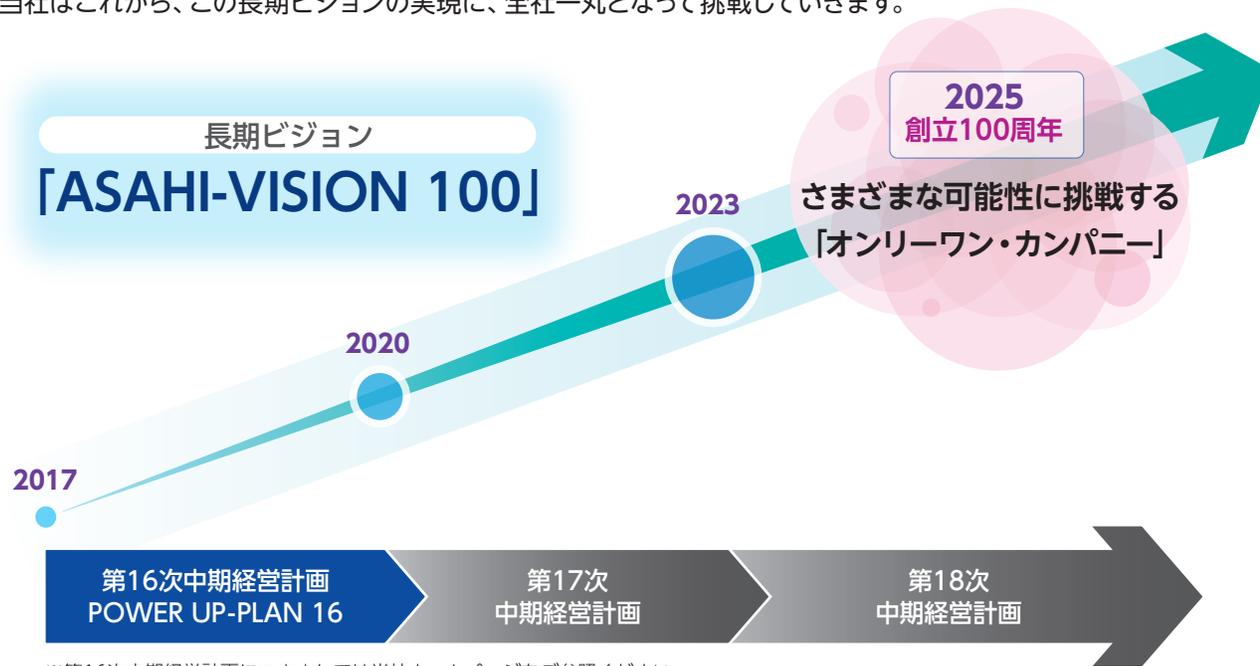
朝日工業社

検索

長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」

Long-term vision

当社はこの度、新たな長期ビジョン「ASAHI-VISION 100」を策定しました。
 これは当社創立100周年にあたる2025年、またその先に向けて、
 目指す企業像とそれに必要となる取り組みや価値観を明らかにしたものであり、
 当社の経営の方向を示したものです。
 当社はこれから、この長期ビジョンの実現に、全社一丸となって挑戦していきます。



※第16次中期経営計画につきましては当社ホームページをご参照ください。

目指す10年後の姿 (ビジョン)

さまざまな可能性に挑戦する「オンリーワン・カンパニー」

- 当社グループは、さまざまなチャンスや問題に果敢に取り組み、価値ある挑戦を続けて、あらゆる人にとって、さらに魅力ある企業集団となることを目指します。
- 当社グループは、将来を見据えた積極的な経営と社会やお客様のニーズを的確に捉えた独自の技術・サービスで、他社とは何か違う、他社より一歩先を行く、『オンリーワン』の企業集団を目指します。

ビジョン実現への取り組み



事業拡充

- 1 産業施設分野への積極的な取り組み
- 2 環境関連ビジネスへの展開
- 3 メンテナンス、リニューアル工事の拡大
- 4 グローバル化の推進
- 5 新たな事業・ビジネスの確立

現場強化

- 1 現場力の強化
- 2 ICT(情報通信技術)の活用
- 3 価格競争力・収益力の強化

基盤整備

- 1 研究・開発力の強化
- 2 人材の確保と活用
- 3 社員の能力開発とやる気づくり
- 4 CSR(企業の社会的責任)経営の推進